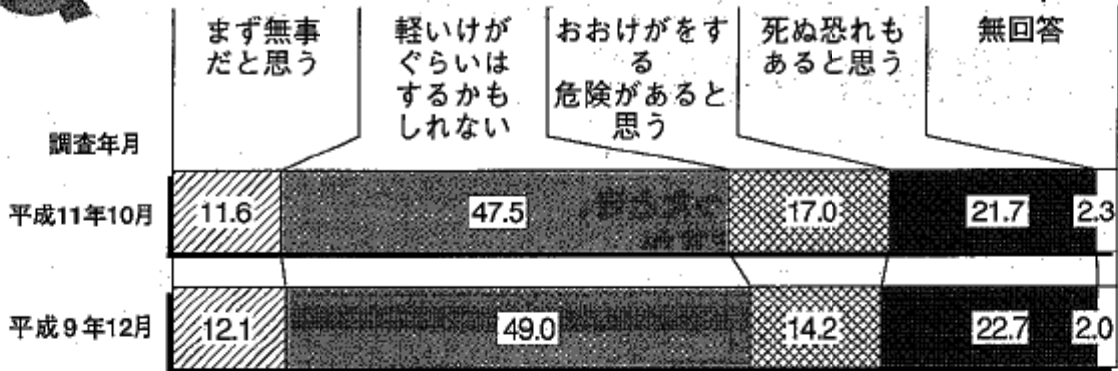




## 大地震が発生した場合の安全性



### ②あわてず冷静に火災を防ぐ

- (1)地震! すばやく火の始末を
- (2)火が出たらまず消火を

そのためには

- 石油ストーブは「対震自動消火装置付」を「三角バケツ」「消火器」の用意
- 防災訓練で消火訓練を

### ③わが家の安全確認

危険なら

安全なら

自主防災活動に参加!!

### ④避難のテクニック

- (1)避難は徒歩で、持物は最小限に
- (2)津波に注意
  - 強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海岸から離れ、急いで高台などの安全な場所へ避難しましょう。
  - ラジオで津波情報をよく聞きましょう。
- (3)山崩れ、がけ崩れに注意
- (4)狭い路地、堀ぎわ、がけや川べりに近寄らない

そのためには

- 非常持出品を用意して身近に置いておきましょう。
- 避難所の確認をしておきましょう。
- 自分の住む地域にどのような危険があるか確認しておきましょう。
- 市町村役場から配付される「防災マップや避難マップ」等で避難路を確認してください。

### ⑤正しい情報の入手を

- テレビ、ラジオの情報に注意してデマにまどわされないようにしましょう。
- 市町村役場、消防署、警察署などからの情報には、たえず注意しましょう。
- 不要、不急の電話は、かけないようにしましょう。特に消防署等に対する災害状況の問い合わせ等は消防活動等に支障をきたすのでやめましょう。

そのためには

- 同報無線の放送が始まったら、戸外に出たり、窓を開けて、よく聞くようにしてください。
- 携帯ラジオを備えておきましょう。

### ⑥協力しあって 救出救助・応急救護を

- 自主防災組織及び隣近所では、倒壊した家屋からの救出救助など協力しましょう。
- 軽いケガなどの処置は、みんながお互いに協力しあって応急救護をしましょう。

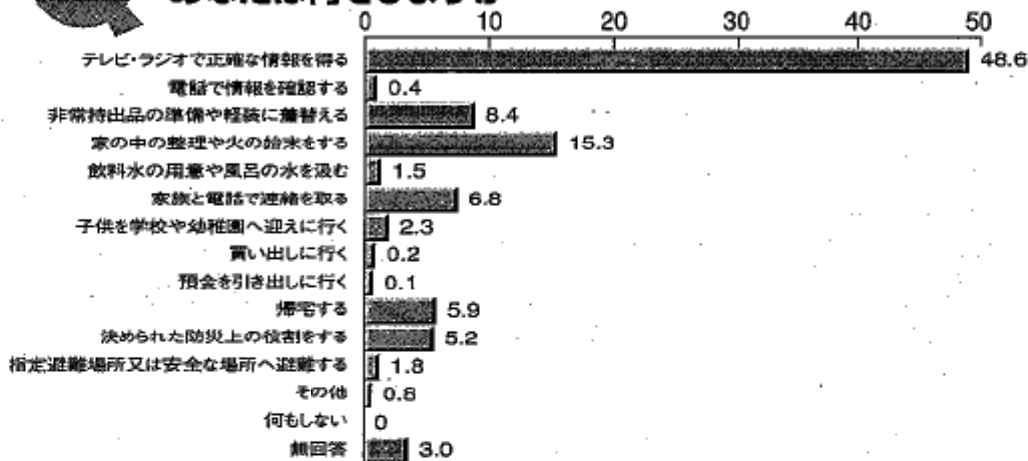
そのためには

- 自主防災倉庫には、資機材があまりまずので場所を確認しておきましょう。
- 防災訓練に参加して、応急救護の方法等をおぼえてください。

# 警戒宣言が発せられたら、 住んでいる地域や家屋の安全性によって 行動が異なります。



「警戒宣言」を知ったとき、  
あなたは何をしますか



警戒宣言はテレビ・ラジオ・同報無線・サイレン等でお知らせします。  
これらの情報に注意し落ち着いて、住んでいる地域に合った適切な行動をとりましょう。

県で決めた仕事の役割にそって、すばやく行動!!



## 判定会招集と警戒宣言

判定会の招集から警戒宣言伝達まで

観測データに異常現象が負された場合には、ただもに「地震防災対策強化地域判定会(判定会)」が招集されます。判定の結果、東海地震が発生しそうだという場合には、気象庁長官はそのことを内閣総理大臣に報告します。内閣総理大臣は閣議で決定した後、「警戒宣言」を発することになります。



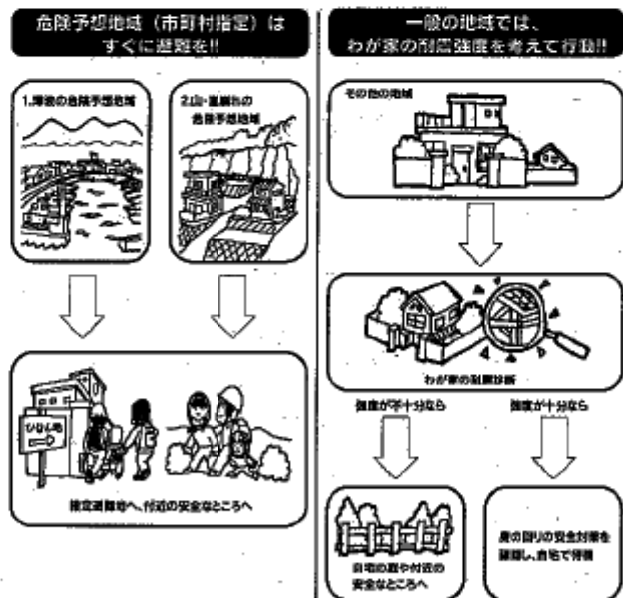
判定会委員の職は

警戒宣言には大きく分けて2つの意味があります。

①M8程度の大地震が発生し、静岡県を中心とする地震防災対策強化地域では、震度6以上のゆれに襲われ、建物などに大きな被害を受けるおそれがある。また、「海岸では大津波に襲われるおそれがある」という警告です。

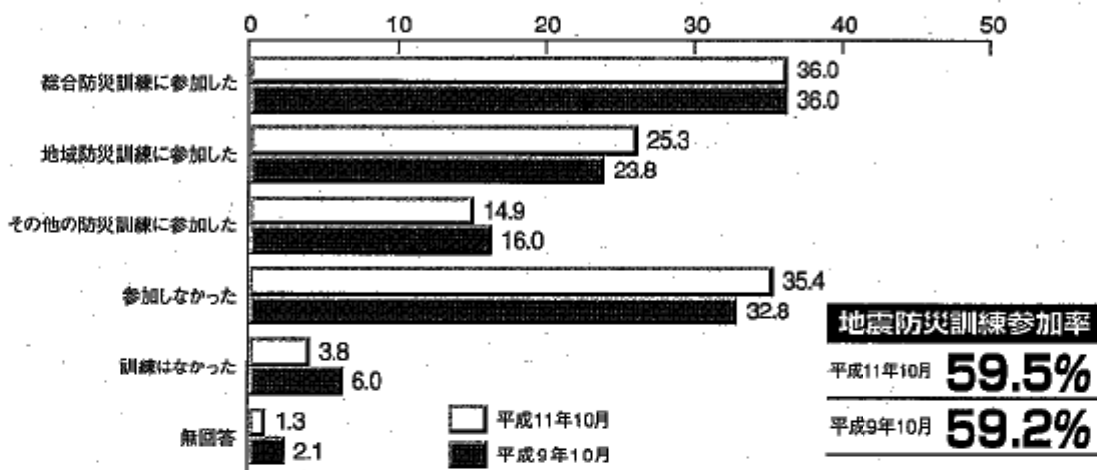
②国・県・市町村・鉄道・学校・病院などの公共な機関や民間の会社・工場、そして各家庭は、あらかじめ自分で定めた計画に従って、「地震発生に備えた対策を始めなさい」という指示です。

## 警戒宣言発令時の避難あなたの避難先は?



※但し、延焼火災の危険が予想される住宅密集地域の人はいつでも避難できる準備をする。

# 自主防災組織が中心となる 地域防災訓練への参加がまだまだ少ないです。 訓練時には地域住民全員が声を掛け合い 参加してください。



防災訓練の参加率は全体で60%でした。概ね半数の人しか参加していないことになります。特に、20代30代の若い世代の参加が少なくなっています。いざという時の行動と、訓練への参加により地域住民同士の連携も高まりますので、お互い声を掛け合って積極的に参加してください。

## 防災訓練の種類

### ア 初期消火訓練

大きな地震災害で最も恐いものの1つは、火災です。関東大震災や阪神・淡路大震災でも火災による大きな被害が出ています。



### イ 救出・救助、応急救護訓練

阪神・淡路大震災では、多くの人が倒壊した家屋の下敷になって亡くなっています。この震災では、地域住民による救出・救助活動の重要性が認識されました。

### ウ 情報収集・伝達訓練

災害に際し、住民は恐怖と不安の真只中で情報を求めています。また、市町村も地域の情報を求めています。正しく迅速に収集伝達する必要があります。



### エ 避難訓練

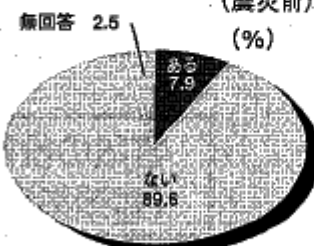
災害が発生し適切な避難誘導が行われなければ、住民はバラバラに移動し、相互のコミュニケーションが取れない状況になります。その結果、だれがどこにいるのかわからなくなったり、災害弱者への配慮がされないことになります。

### オ 給食・給水訓練

大規模な災害が起こると、ライフラインがまひし、流通機能が混乱するので食料の入手が困難になります。物資が供給されるまでの間は自力で対処しなければなりません。その為、協力して、給食・給水活動をするのが重要です。

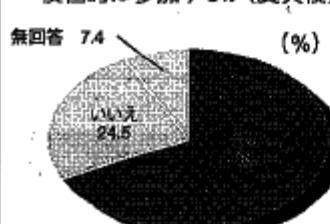


●今までに地震を想定した訓練への参加経験はあるか(震災前)



(神戸市民アンケート結果)

●今後地域の防災訓練に積極的に参加するか(震災後)

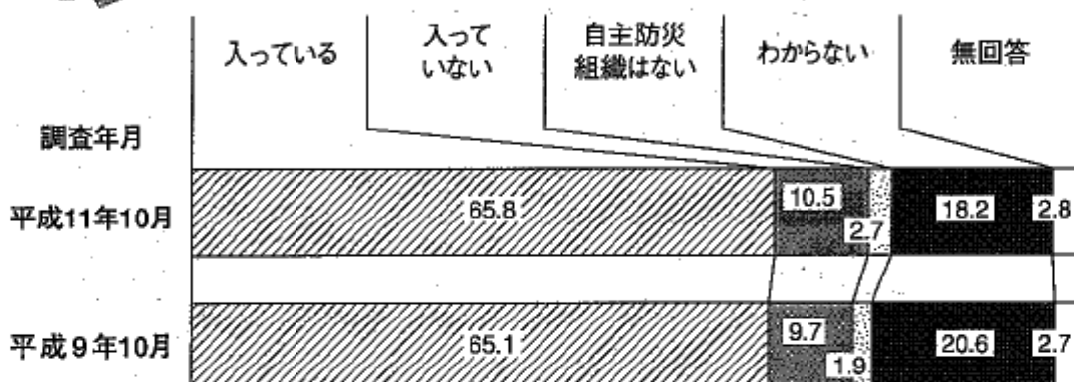


(平成7年2月 神戸市消防局実施調査)

# 誰もが自主防災組織の一員であることを 確認してください。 発災時の救出・救助など 隣近所のつきあいも大切です。



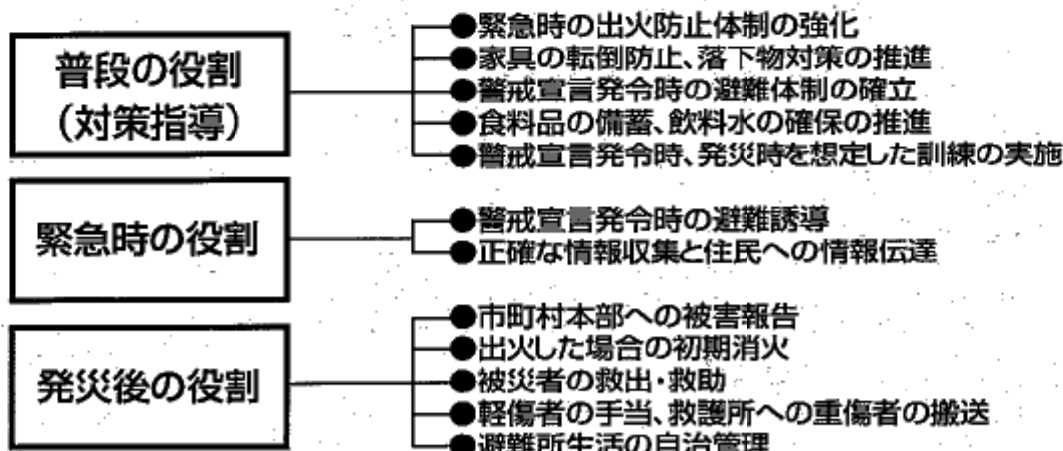
あなたのお宅は、  
地域の自主防災組織に入っていますか



自主防災組織に加入していると回答した人は、65.8%でしたが、  
実際の自主防災組織加入世帯率は、95.6%（平成11年4月現在）です。  
阪神・淡路大震災でも住民の助け合いで多くの尊い命が救われました。  
自分も加入しているという自覚を持ってください。

## 自主防災組織の役割

東海地震が起こった場合、その被害は広域で激甚に及ぶと予想され、行政の対応だけでは限界があります。地域においては住民自身が「自らの地域は皆で守る」という原点に立って、防災に対する心構えや準備をしておくことが被害を少なくする上で大きく役立ちます。そのためには以下のような自主防災組織の役割が大切になってきます。



## 防災訓練

いざというときに冷静な行動をとるには、日頃から訓練しておくことが大切です。このため、静岡県では東海地震を想定した「総合防災訓練」(9月1日)と、突然発生した地震を想定した「地域防災訓練」(12月第1日曜日)地震後の津波を想定した「津波避難訓練」(7月1日～10日の内1日)に分けて年3回の訓練を実施しています。防災訓練にはみんなで参加しましょう。